

2019年5月31日発行

## ③ 幼児教育無償化の愚

安倍首相は、消費税率引き上げ分の使い道を変更して、今年の10月から3歳以上の子どもの保育料を一律に無償化する方針を打ち出した。実に愚かな政策だ。優先順位が完全に間違っている。

教育の無償化とは本来、全員が無償で教育を受けられるようにすることだ。それは学習権を保障することであり、その大前提として全員に確実に教育機会が保障されていなければならない。ならば一律無償化よりも前に待機児童の解消を行わなければならないのは、理の当然というものだ。

待機児童の解消の為には認可保育所の増設が必要だが、保育所不足の最大の原因は保育士不足であり保育士不足の最大の原因は勤務条件の悪さだ。

年間7700億円もの予算が使えるなら、まずは保育士と幼稚園教諭の待遇と配置基準の改善に充てるべきなのだ。

さらに問題なのは、保育料一律無償化が格差を拡大する逆進的な政策ということだ。すでに全額免除されている低所得者には全く恩恵がない。より高所得の階層に恩恵が生じるだけだ。当面は保育料減免の対象者の拡大にとどめるべきだ。

「少子高齢化の克服」「一気に無償化」「人づくり革命」など威勢のいい言葉で飾られた政策だが、この幼児教育無償化は逆進的な税制で逆進的な政策を行い、格差を拡大して財政を悪化させるだけなのである。前川喜平(現代教育行政研究科)

4月28日東京新聞本音のコラムから

\*そもそも、消費税の本当の目的は、「大企業と金持ちの税金を減税する」ことなのです。しかも、消費することに罰金を科す仕組みの税なので、経済成長をストップさせてしまうのですから最悪です。

消費税の目的は「社会保障」でも「借金返済」でもないことに、国民は気がつかないといけません。

前川喜平氏は流石です。安倍政権に媚を売らず、「実に愚かな政策だ。」と断じてます。財界と金持ちに寄り添う「悪徳政治家」達に、“お前らは実に愚かである”新聞のコラムでそう書いたのですから。



連休はどこにもいかなかったのですが、久しぶりに市内に住んでいる姉のヒロミ(右端)の家に行きご馳走になりました。いやあ、楽しい時間でした!! ③

## たかやんのプロフィール



1954年、港区青山生まれ。

本名 たかむらともや

新宿区立西戸山小中学校卒。新宿区百人町では有名な超悪ガキで成績も悪くPTAのおばちゃん達から最も嫌われるタイプの子もだった。都立石神井高

から北大に進み、大学3年の冬、突然「教師」を目指し、昭和52年4月、新設校の新座五中に赴任する。五中・六中・二中で21年間担任を続け、年間240号以上の学級通信「一生懸命」を書き続ける。その続編がこの幻の議会報告『一生懸命』である。

木村俊彦と”市民と語る会”を結成。「教育問題」を中心に「PTA問題」「道路問題」「ワクチン問題」「町内会の補助金問題」「学童保育室問題」などに取り組んでいる。現在石神3丁目の”たかやん塾”で中高生達と”個別対応””集団対応”の塾をやりながら、月に一度の黒目川の川掃除と7か所での駅立ちに燃えている。過去の議会報告『一生懸命』は全てホームページで読むことができます。

写真は高校2年生になった娘と東久留米の駅でのツーショット。学年で1位になった自慢の娘と駅で会えることが嬉しい。③

## 👤 憲法記念日

5月3日は憲法記念日です。新天皇が「従う」と国民に「宣言」した憲法です。その憲法を「改悪」しようという「極悪人」がいるのだから困ったものです。私の父新太郎は「自民党」の住栄作(海軍主計大尉・労働官僚・法務大臣)の「応援団長」でした。

当時の「自民党」には憲法改正を叫ぶような、国民を裏切るような「極悪人」は少なかったのです。

父のように戦争で南方に行き、命懸けで国の為に戦った男たちは「憲法第九条」の有難さを身に染みて知っていたのです。だから、国会議員は勿論、官僚も国民の誰もかもが戦争で荒れ果ててしまった日本の復興の為に必死に生きていたのです。

「九条」があったから、朝鮮戦争は勿論、ベトナム戦争にも日本の若者たちは兵士としてかり出されることはありませんでした。その結果、あの「高度経済成長」があったのです。ベトナム戦争があった時、中学生だった僕らはアメリカの若者達と一緒に「反戦歌」を歌って育ちました。父親の代も戦争を経験していない、僕らより年下の国会議員達が「金の為に生きる」のは許せません。しかし、同世代や僕らより上の世代の議員が、改憲を主張して、日本の男たちを守ってきた「憲法九条」を廃止しようとするだけでは許せないのです。そして、「改憲」は勿論、日本国民の不利益になるような特定秘密保護法、安保法制、種子法廃止、水道民営化、移民法、TPP、FTN、農地法改正、消費増税等々をすすめていくことは何としても止めなければなりません。

5月3日は憲法記念日。我々は「新天皇」と共に日本国憲法と共に、令和の時代を歩いていかなければなりません。

「改憲」だけは許してはならないのです。「改憲」の後には「経済的徴兵」が僕らの子ども達のに待っているから…。そう、アメリカ合州国のように。

貧しい家に生まれた子ども達が、自ら「軍隊」に志願する。それが貧困大国アメリカの姿です。格差社会に待ち受けているものの一つに「経済的徴兵」があることを忘れてはいけません。僕らは「憲法」に守られてきたのですから、子ども達の為に責任を持って「改憲」に反対しなくてははいけないのです。

\*ちなみに、The United States of Americaを「アメリカ合衆国」と訳すのは間違いです。どう訳し

## 👤 懐かしい写真



ちょっと古い写真ですが、19歳の頃の僕です。体育館で練習をした後に、クラーク会館でご飯。そんな写真だと思います。前列一番右が僕です。髪が長いですね。



担任と子ども達との距離感が分かる写真です。左から、恵子、礼、尊子、怜子、貴子の自然の笑顔が懐かしいです。五中7期生の1年2組の遠足の時の写真ですね。貴子とはもう会えないんだけど、他のみんなどうしているのかな。会いたいな。



この場所が分かる人は五中通です。五中の体育館の脇で子ども達と一緒に雪だるまを作った時の写真です。この時もまだ毛がありますねえ。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください m ( \_ \_ ) m